

資料渉猟余話

その133

昨年、益前だった

ろうか、MSCの仲間の湯澤厚さんから「数日内に取り壊しになる住宅の後片付けを任された。ついでに本棚が一棹残さずおぼしき六畳の部屋に神棚と本棚が残さぶった書籍があるよ」うだが、MSCで引き取る気があるか」という趣旨の連絡が入った。湯澤さんは翌朝、追手町二丁目、飯田美術博物館斜向かいの現場にくといたので、仕事の都合をつけて駆け

つけた。二階建ての住居の一階はすでに畳も上げられ、引越しを終えたようにガラんとしている。奥の間とおぼしき六畳の部屋に神棚と本棚が残さぶった書籍があるよ



水野都生生の旧宅跡にて

嶋 不濁

夫の名前が読める。その受賞者名は水野都生(としお)とある。嗚呼。

水野都生は明治43年2月追手町の神職の家の5代目として生まれた。旧制飯

10年9月25歳の時に堀照子と結婚。妻の父が営む映像機械制作会社「高密工業株式会社」に勤務、専務取締役を務めた

が、昭和19年34歳の時、召集され満州へ渡った。戦後は昭和24年に帰郷し、南信時事新聞の記者を務め、昭和26年から48年まで飯田高松、阿南、下農、長姫など郡下の高校で教鞭をとった。この間、昭和40年神職の資格を得て鳩ヶ嶺八幡宮禰宜などを務めている。この年、飯田文化財の会が発足し、事務局局長を務めたのが55歳。



田中から國學院大文学部に進み、当地にもゆかりの深い民俗学者折口信夫の講義を受けている。卒業後の昭和8年に大阪毎日新聞社に入社、その後、報知新聞記者を経て、昭和

明治改元1000年を期して昭和42年11月「南信州」に始まった連載「郷土の百年」が好評裡に次大戦のころ「A5判上製324冊定価1000円」に上り、また8月に「郷土の百年」A5判上製230冊定

し、翌44年11月には郷土の百年 第二集「A5判362冊」定価700円『第二の百年』が好評裡に次大戦のころ「A5判上製324冊定価1000円」に上り、また8月に「郷土の百年」A5判上製230冊定

その他にも、郷土の百年 第二集「A5判362冊」定価700円『第二の百年』が好評裡に次大戦のころ「A5判上製324冊定価1000円」に上り、また8月に「郷土の百年」A5判上製230冊定

その他にも、郷土の百年 第二集「A5判362冊」定価700円『第二の百年』が好評裡に次大戦のころ「A5判上製324冊定価1000円」に上り、また8月に「郷土の百年」A5判上製230冊定

その他にも、郷土の百年 第二集「A5判362冊」定価700円『第二の百年』が好評裡に次大戦のころ「A5判上製324冊定価1000円」に上り、また8月に「郷土の百年」A5判上製230冊定